室蘭清水丘高国際交流通信

第1巻　第3号
2018年2月19日

国際交流委員会発行

2年生石尾真瑚さんの短期留学記です。

一昨年の姉妹校訪問団が、アラスカ訪問をした時に中国からの留学生がいました。エジカム高校では、外国語として，日本語の他に中国語の授業もあり中国から短期留学生が来ていると言うことで、日本からも是非来てもらいたいというお話をいただきました。

本校での短期留学は、過去に実績があるというものの多くの資料が残されておらず、一つ一つ確認しながらの留学準備となりました。

留学した2人も，準備段階からしっかりとやってくれましたし、ご家庭の協力があって短期留学が無事終えられたことに感謝いたします。（宗像）

発行予定

姉妹校留学を経て！　4
エジカム高校までの行き方！　5
内モンゴルからの訪問団！　6
内モンゴルってどこにある？　7
内モンゴルの高校生から手紙　8

姉妹校Mt.EdgecumbeHSへの短期留学記を掲載します

2ヶ月間の留学を終えて　　石尾真瑚

私は高校に入る前から国際交流に興味があり、入学するとすぐに国際交流局に入局しました。そこにはALTと楽しく会話している部長の姿がありました。先輩は、英語を話せるだけでなく、周りの人に気を配れるなど豊かな人間性を持った先輩でした。私も、先輩のように自分も変わりたいと思いました。私の憧れの大好きな先輩です。

その先輩はカナダに留学をしたと聞き、留学について興味を持つようになりました。留学の機会があったら是非参加したいと考えていたとき、今回の姉妹校短期留学事業の話をいただきました。行ってみたいとすぐに思い，両親と相談し、留学の申し込みをしました。

留学の審査は、小論文と面接がありました。自分の留学にかける思いを書き、面接では留学したいという思いを日本語と英語で伝えました。おもいがかない無事合格し留学候補と決まりました。それから、出発するまでは3ヶ月ほどあり、それまでパスポートやビザの代わりとなるESTAの申請から、予防接種をしたり、自己紹介文の作成など準備を進めました。それだけでなく、サラ先生と英会話の練習をしました。最初は間違った英語を話してしまったらどうしようと緊張してあまり話せませんでした。しかし日を重ねるごとにサラ先生との会話が楽しくなっていくのを実感しました。

出国の日は荒木先生と中谷先生と家族が見送りに来てくれました。これから私は日本を離れるんだなぁと身が引き締まる思いでした。そしてシアトルに到着するとすべてが英語で、たくさんの国の人々を見てワクワクが止まらなかったのを覚えています。しかしワクワクも束の間、ハプニングが起きました。それはアラスカン航空への乗り換えをアシストしてくれる人になかなか会うことが出来なかったことです。早速英語を使うことになった私たちは練習の成果を出すべく、精一杯周りの人たちに話しかけました。しかし、現地人たちは話すのが速すぎて全く聞き取れませんでした。空港のスタッフにANAのカウンターに連れていかれ、日本語を話せるキャビンアテンダントを紹介してもらい、やっとの思いでアシスタントさんに会うことが出来ました。

アメリカに来て初めてサブウェイのサンドウィッチを食べました。私は時差ボケのせいで具合が悪くなり、そのサンドウィッチを美味しく味わうことが出来ませんでした。

私が載ったアラスカン航空の飛行機はシアトル→ケチカン→シトカ→アンカレッジと寄港していく飛行機でした。機体は思ったより小さく、機内はとても寒かったです。機内サービスは少なく、日本のサービスはすごいんだなぁと思いました。でもキャビンアテンダントさんはとてもフレンドリーに接してくれてとてもうれしかったです。

シトカ空港に到着するとマウントエッジカム高校の生徒達とキンバー先生が出迎えてくれました。みんなはとても優しく話しかけてくれて安心しました。

左　真瑚　　中央　キンバー先生　　右　陸王

Mt.EdgecumbeHSのみんなと写真

自由の国、アメリカ！子どもは信頼されることで成長する！

Mt. Edgecumbe高校は良いところがたくさんありました。まず、校則がほとんどないことです。さすが自由の国、アメリカだなと思いました。生徒たちはみんな自分なりのメイク、ヘアスタイル、ファッションで登校します。日本はみんな同じような格好をしなければならないのに、アメリカはその真逆で個性を出すことを大事に思っています。その背景として、アメリカの大人は子どもを子ども扱いしないことがあります。アメリカの大人は子どもを信頼してくれています。そのことで、生徒達は自分自身に責任を持ち、人を思いやれるようになるのだと思いました。

自分の良いところを見てくれる先生たち

授業の進め方も良いと思いました。最初に思ったことは、先生は生徒達の自主性を大切にしていると思いました。先生がお話をするのは授業の冒頭だけで、あとは、生徒達で協力して考えをまとめて発表させます。先生は発表について否定をしません。その発表の良いところを見出して褒めてくれます。日本では褒められるという場面が少ないので、私は嬉しく思いました。私はそんな自分の良いところを見てくれる先生たちが大好きでした。

テストや教科によってはパソコンを使いました。Mt. Edgecumbe高校の生徒には一人一台ノートパソコンが支給されます。学校からの連絡はすべてGoogleメールを使いました。パソコンが教科書替わりになることもあったので、その分リュックが軽くなり良いと思いました。

自分のホームタウンについてもっと知るべき

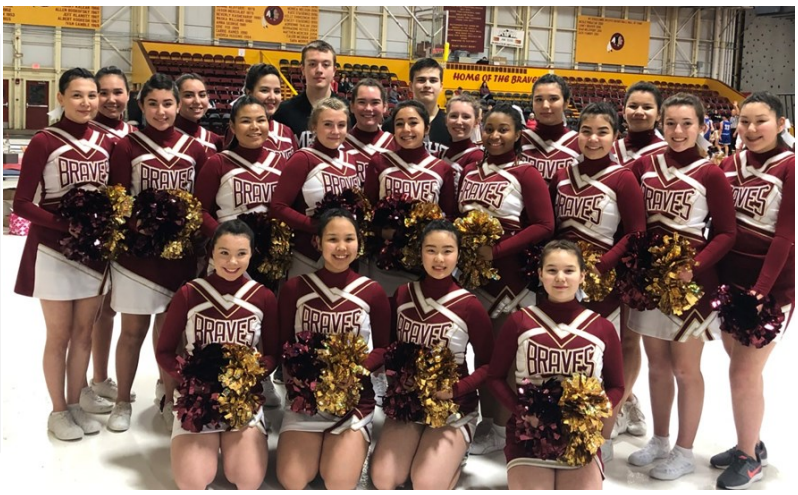
Mt. Edgecumbe高校の生徒たちのほとんどは寮で生活をしています。そこでも規則は門限と就寝時間だけです。寮には毎日たくさんのアクティビティーがあり、自由に参加することが出来ます。その中には数々のアラスカ文化についてのアクティビティーが有りました。文化についてたくさんの人が興味を持っていて良いと思いました。私たち北海道民は同じようにアイヌ文化について興味があると言えるのでしょうか。これから自分のホームタウンについてもっと知るべきだと思いました。

乗り越えてきたからこそ見える景色がある

Mt. Edgecumbe高校には日本語を話せる人は日本語の先生のMr. Kimberと若佐くんしかいなかったので日本語を話せる機会は日本語の授業以外ありませんでした。ですから、留学をして英語を話せるようになりたい、と思っている人にはぴったりな留学場所だと思います。最初の一週間は、見知らぬ、日本語が通じない環境で暮らすことはとても辛くて毎日泣いていたこともありました。でもそれを乗り越えて来たからこそ見える景色があります。来年以降もこの姉妹校短期留学事業があり、私のしたような素晴らしい経験をする後輩たちがより増えればと切に願っています。

私はシトカに滞在してこの文章にすべて書ききることが出来ないくらい、たくさんの経験や思い出を作ることが出来ました。例えばハロウィンやサンクスギビング、クリスマス。寮生活やチアリーディング部で活動できたこと、カニ漁に連れて行ってもらったことです。

今回の留学での経験や出会った友達は一生忘れません。この機会を作っていただいた先生方、また私を信じてこの留学に行くことを許してくれた家族のみんな、本当にありがとうございました。

今回は，エジカム高校へ短期留学した石尾真瑚さんの体験記を掲載しました。チアリーディング So Cute

次回は、若佐陸王君の体験記です。おたのしみに